

学 位 論 文 要 旨

氏 名 森下 左知子

題 目 教師が困難な状況乗り越える成長過程における管理職・同僚とのかかわり
～自己心理学的視座からの考察～

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究の目的は、教師の精神的健康の悪化を防ぐ手立てとして、教師がストレスを抱えると考えられる困難な状況乗り越える過程を教師の成長過程として捉え、その過程での職場の管理職や同僚とのかかわりについて一定の方向性を示し、教師の精神的健康の維持、促進のための支援のあり方を検討することであった。具体的な支援を示すために、心理学において、他者との人間関係が人の心理的発達にどのような影響をおよぼすかという点において明細に論じられている精神分析に属する精神分析的自己心理学（Kohut, 1971, 1977）（以下、自己心理学と示す。）が有用であるとし、教師の成長過程において精神的健康の維持、促進を可能とする管理職や同僚とのかかわりについて自己心理学的視座から検討することであった。

まず、第1章では、教師の精神的健康の悪化の現状と課題要因や改善策にかかわる研究動向について概観した。そして、教師がストレスを抱えると考えられる困難な状況乗り越える過程を教師の成長過程として捉え、その過程での職場の管理職や同僚とのかかわりについて一定の方向性を示すこと、併せて教師の職務の特殊性を鑑みつつ、対人援助職特有の感情体験が生じることも視野に入れながら、教師の精神的健康の維持や促進のための支援のあり方を具体的に示す必要があることがわかった。そこで、他者とのかかわりと自己の成長について詳細に捉えた Kohut が提唱した自己心理学の視点から、教師の成長過程と精神的健康について検討することを指摘した。自己心理学では、自分以外の対象（自己対象）との間で心理的に支えられているという体験である自己－自己対象体験により自己の成長が促されるとされている。この過程を整理し、詳細に捉えるため、①教師としての自己の成長を促す自己－自己対象体験についての検討、②教師の自己－自己対象体験をより詳細に捉える動機づけシステム理論における感情体験についての検討、③教師の成長過程を長期的な時間軸で捉え、自己－自己対象体験、動機づけシステムを検討し、教師としての成長過程に自己対象がどのように展開されるかを検討することとした。

第2章では、教師が困難な状況乗り越える過程に教師としての成長を孕んでいることから、教師が困難な状況乗り越える過程における管理職と同僚とのかかわりにより、自己心理学における自己－自己対象体験がもたらす教師の成長過程と教師への支援のあり方について検討した。3名の教師にインタビュー調査を実施し、インタビューデータの逐語録をSCAT（Steps for Coding and Theorization）により分析し、得られた結果を、管理職や同僚とのかかわりになどによる自己－自己対象体験の過程として考察した。すべてのストーリーラインに若手教員の頃のエピソードが示され、

若手教師の困難な状況が示された。また、自己－自己対象体験であると考えられる経験が受容、安心といった気持ちを形成し、教師としての自己の成長の促進が示された。

第3章では、教師が困難な状況を乗り越える過程において、同僚や管理職等の他者とのかかわりから生まれる感情は、Lichtenbergの動機づけシステム理論における自己－自己対象体験により引き起こされていると仮定し、それはどのように自己組織化し、自己安定を導くのかを自己心理学における感情体験を焦点化した質的研究により検討した。25名の教師にインタビューを実施し、インタビューデータの逐語録を定性的コーディングの演繹的アプローチを参考に分析した。その結果、教師の自己－自己対象体験である7つの動機づけシステムが機能していることが確認された。また、各動機づけシステムの相互性を踏まえることにより、困難な状況におかれている教師の連続的な感情体験が、何を導き出すための営みであるかという理解が促進され、教師が周囲への適切な対応を求めることができる可能性も示された。

第4章では、教諭としての職務を経て管理職として勤務している教師が、自身の教師としての成長過程において出会った教師に対し、また、管理職となってから勤務する所属校での教師に対し、どのようなかかわりを経験してきたのかを自己心理学の視座から検討した。3名の管理職に、インタビュー調査を実施し、インタビューデータを研究協力者とインタビューアの語りとするシークエンス分析を行い、得られた結果を自己心理学の視座から検討した。結果、教師の成長過程により自己－自己対象体験は変容すること、自身が経験した自己－自己対象体験は管理職としての営みに影響を及ぼす可能性が示された。

最後に、第5章では、本研究で得られた結果を概観し、教師の精神的健康の維持・促進や教師の適切な成長がのぞまれる学校教育現場での自己心理学の知見の有用性について考察した。教育的課題が山積する現代、一人で解決することが困難な事象を取り扱う教師にとって、自己－自己対象体験が教師としての成長にとって必要なことであるということを示した。今後の展望として、教師と管理職、教師と同僚など、自己－自己対象体験がどのように相互的に影響しているのかを詳細に検討することや、教師の成長を促進する教師集団を自己心理学的に考察すること、また、教師が自己心理学的視座により自身の自己の成長を確認することで、同じように自己－自己対象体験を経て成長する児童生徒に対する理解が促進する可能性を示した。